

獣医学部ダイバーシティ・ステートメント

岩手大学獣医学部は、ダイバーシティ推進を重要な責務と認識し、多様性を尊重し、誰もが活躍できる環境づくりを積極的に推進します。その一環として、以下の3項目に重点的に取り組みます。

- **女性教員の積極的な採用と教授職登用の推進:** 学部における女性学生の比率が過半数を占め、国際的な潮流においても獣医学分野における女性の活躍が顕著であることを踏まえ、本学部においても女性教員の積極的な採用と、将来的な教授職登用に向けた育成を強化します。
- **多様な背景を持つ大学院生の積極的な受け入れ:** 社会人経験者や海外からの留学生を積極的に受け入れ、多様な視点と経験が融合することで、教育研究の活性化を図ります。
- **リカレント教育の継続的な実施:** 学部附属の教育研究センターを拠点として、社会人獣医師等に向けたリカレント教育を継続的に実施し、生涯にわたる学びの機会を提供することで、地域社会への貢献を強化します。

現状分析:

本学獣医学部の在学生は女性が多数を占めており、2025年3月末現在、学部生198名のうち女性は112名（56.7%）となっています。この傾向は全国的にも同様であり、欧米の獣医学部ではさらに女性比率が高い状況が見られます（Figure 1 参照）。

一方、2025年3月末現在の特任教員を含めた本学部教員数36名のうち、女性教員は9名（25%）に留まっています。米国においては、ジョージア大学、テネシー大学、パーデュー大学、ワシントン州立大学など、多くの獣医学部で女性教員比率が30%から50%に達しており（Figure 2 参照）、国際的な水準と比較すると、本学部における女性教員の割合には改善の余地があると言えます。この現状を踏まえ、女性教員比率の向上と女性教授の登用が課題です。

獣医学研究科においては、2025年3月末の在籍学生21名中、社会人学生が18名（85.7%）、海外からの留学生（外国籍）が2名（9.5%）であり、今後更なる留学生の受け入れを推進します。

社会人を対象としたリカレント教育は、獣医学部附属動物医学食品安全教育研究センターおよび産業動物臨床・疾病制御教育研究センターを中心に、部門別研修会、全体研修会、東北農場HACCP研修会、6大学共同開催フォーラム、NOSAI東北家畜臨床研修センター新人若手研修会、岩手大学FAMS・

FCD 「診療技術セミナー」、NOSAI 東北中堅獣医師講習会、FAMS 成果発表

会などを例年実施しており、今後も継続的に実施します。

目標:

上記の現状分析を踏まえ、2027 年 3 月末までに女性教員比率を 27% に引き上げ、将来的に女性教授の登用が期待される女性准教授を 1 名昇任することを目指します。また、獣医学研究科における社会人学生の割合は 50% 以上を維持し、留学生の割合を 10% 以上に向上させることを目指します。さらに、社会人を対象としたリカレント教育を継続的に実施します。

今後の課題:

ハンディキャップを持つ人材の雇用や学生の受け入れに関しては、関連法規の整備状況を踏まえ、慎重に対応してまいります。

2025 年 6 月 6 日

獣医学部長 佐藤 洋

海外の獣医科大学における学部学生数

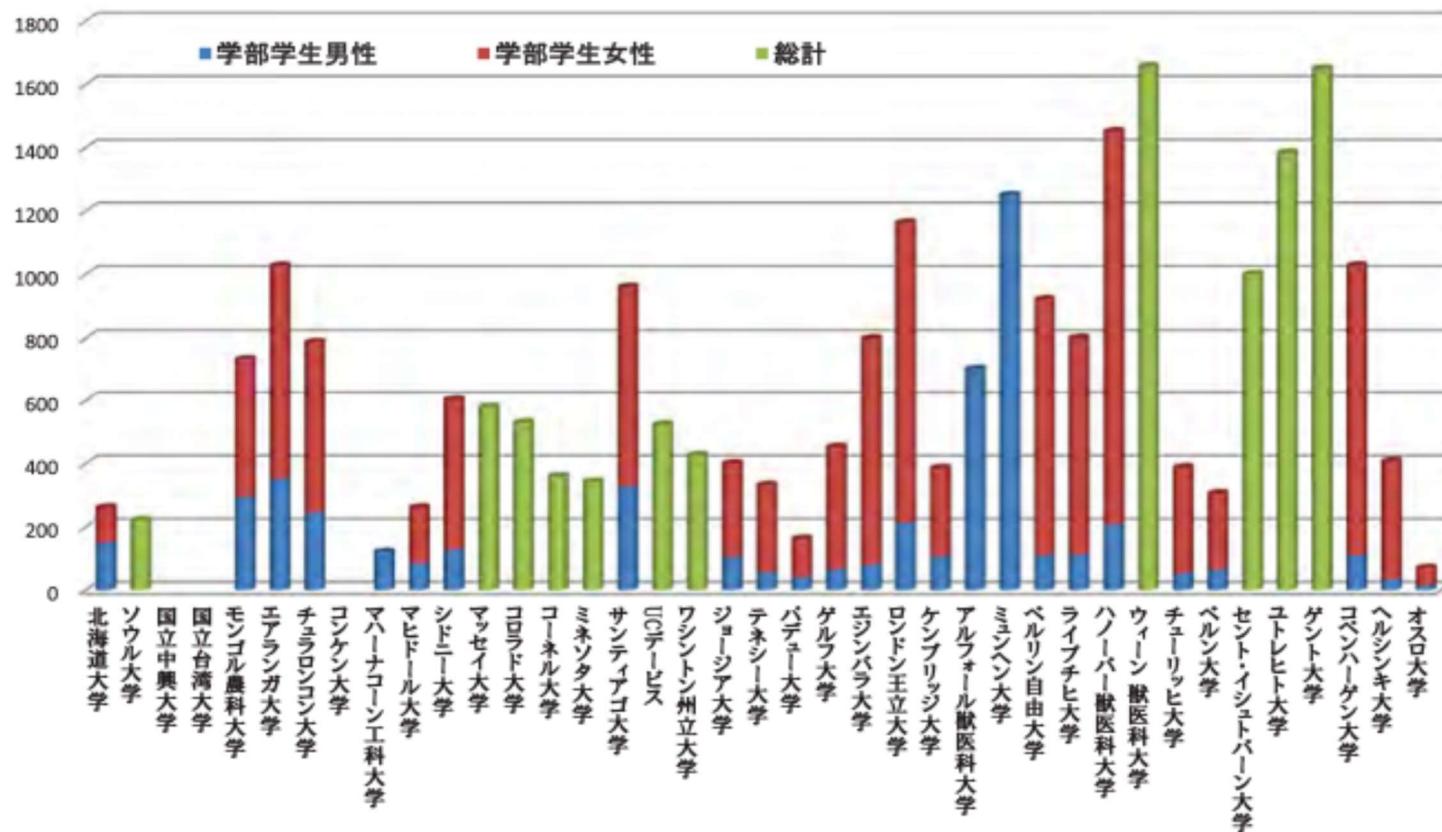


Figure 1. 海外の獣医大学における学部学生数

北海道大学:「諸不外国における獣医師養成制度に関する調査研究」先導的大学改革推進事業(平成22年9月～平成24年3月)より抜粋

海外の獣医大学における教員(アカデミック・スタッフ)数

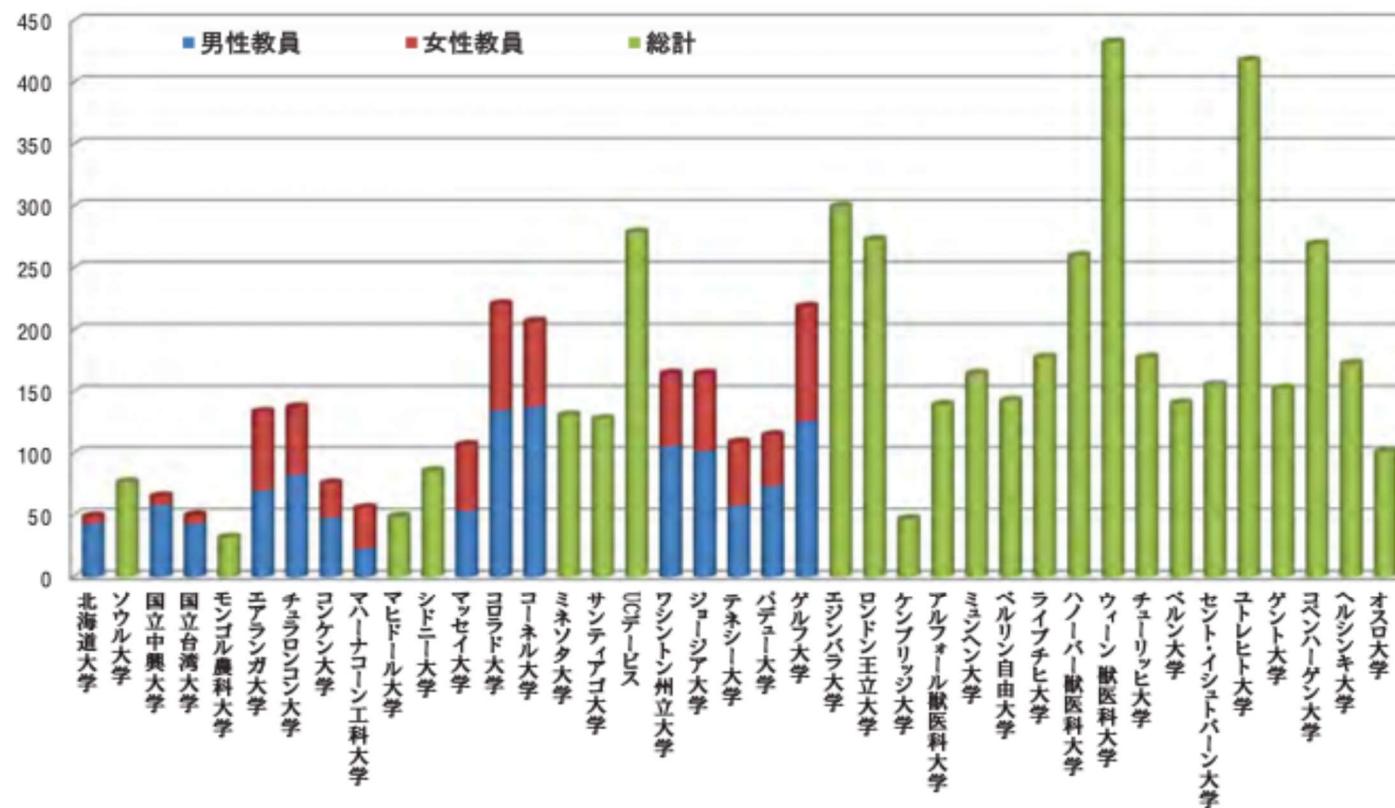


Figure 2. 海外の獣医大学における教員数

北海道大学:「諸不外国における獣医師養成制度に関する調査研究」先導的大学改革推進事業(平成22年9月～平成24年3月)より抜粋